令和6年度第1回茅ヶ崎市市民活動推進委員会
会議録

議題	(1) 令和5年度実施市民活動推進補助事業実施報告
日時	令和6年6月1日(土) 10時00分から16時30分
場所	市役所本庁舎4階 会議室4・5
出席者氏名	山口敦史 藤間英里 市川歩 船山福憲 高山和茂 若林英俊 坂田美保子 山田修嗣 事務局3名(市民自治推進課) 三浦課長、服部副主査、柿澤副主査
欠席者	菅野敦 羽場大祐
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴者数	35人(内オンライン3人)

(午前 ステップアップ支援の部)

○事務局

皆さま、こんにちは。

本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

ただいまより、令和5年度実施市民活動げんき基金補助事業実施報告会ステップアップ支援の部を開会いたします。

本日の司会進行を務めます市民自治推進課の三浦と申します。よろしく願います。

それでは最初に、本日の令和5年度実施市民活動げんき基金補助事業実施報告会の審査を茅ヶ崎市市民活動推進委員会に行っていただくにあたりまして、市長から委員会への諮問書の手交式を執り行わせていただきます。

山田委員長は前にお進みください。

(諮問書 手交)

山田委員長ありがとうございました。

それでは開会にあたりまして、佐藤市長より御挨拶申し上げます。

○佐藤市長

皆さまこんにちは。早朝からお越しいただきまして誠にありがとうございます。昨年活動をしていただいた報告会でございますけれども、コロナ明けで準備などもなかなか大変だったのではないかと推察いたします。

実は、この報告会はとても大切だと思っております。皆さんがどんなことをやられたのか、お互いに知って、共通点を見出して、交流できることがあるのではないかと考えています。

また、この事業は市民の皆さまあるいは事業者の寄附によって成り立っていますので、この報告会をここで納めるのではなく、寄附をいただいた方々、事業者の皆さまの寄附がこういうところに使われていますとしっかり報告をしなければならぬと思っております。これは行政の大きな課題だと思っております。

実は数年前に、小学生の1年生の黄色い帽子を廃止にしました。その時に市内の第一カッターという事業者が会社のシンボルカラーが黄色ですので、1年だけ、小学1年生に黄色い帽子を配っていただきました。

そうしたら、その年の1年生が感謝のお手紙を書いたのです。黄色い帽子のおかげで熱中症にならなくてすみました。帽子をかぶって元気に安全

に学校まで通学することができましたと。それで、第一 Cutter さんは大変喜んでくれて、毎年やらせてくださいとおっしゃっていただけて、毎年継続的に黄色い帽子を配っていただいています。

私が出す感謝状よりよっぽど感動的です。皆さんの報告会を、寄附をいただいた方々、事業者につなげていくことができれば、皆さんの活動の継続にも繋がるのではないかと考えています。

採択の時は発表の時間が7分でしたが、この報告会はもう少し時間がありますので、しっかりと御報告いただいて、次につながる会にさせていただきたいと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。誠に恐縮ではございますが、市長は次の公務のため、これをもちまして退席とさせていただきます。

続きまして、市民活動推進委員会の山田修嗣委員長より御挨拶を申し上げるとともに、各委員を御紹介いたします。委員長よろしく願いします。

○山田委員長

皆さまこんにちは。市民活動推進委員会を代表いたしまして御挨拶を申し上げます。

皆さまよく御存じのとおりだと思いますが、このげんき基金は、市民活動を推進する環境を整備し、市民活動の活性化を図ることで活力あふれる地域社会の実現を目指すことが目的の基金です。

令和5年の3月18日に公開プレゼンテーションがありまして、その際に、皆さまの、1年間このような計画で活動します、という計画に対して、本日と同じように市長からの諮問を受けて、委員がその評価をし、その結果を答申とし、市長の決裁を仰ぐといった段取りで、昨年度1年間サポートをさせていただきました。

本制度は平成17年度から茅ヶ崎市で実施している事業でして、既に190以上の事業に対して支援をしております。

これまでの事業では行政との協働推進事業に発展したものもあれば、委託事業に成長したという事例もあります。

そういう意味では非常に重要な制度であると感じています。

今日はこのあと、令和5年度に実施しました事業について成果の御報告をいただきます。午前に5つ、午後に7つで計12事業の御報告をいただく予定です。事前に提出いただいた実績報告書と今日の報告を受けまして、皆さまの今

後の活動の発展がみられますようコメントや質問をさせていただきたいと考えております。

それでは、これから報告を聞かせていただきます委員を御紹介いたします。

(各委員紹介)

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。

なお、本実績報告会では、ZOOM のウェビナー機能を使用して映像配信をしておりますので御承知おきください。

それでは、本日の報告会の流れについて、簡単に御説明申し上げます。お配りしております市民活動げんき基金補助事業冊子を御覧ください。

本日、これから12時10分ごろまでのお時間で、令和5年度に実施した市民活動げんき基金補助事業のステップアップ支援枠の5事業について報告をいただく予定です。

発表の時間配分について御説明します。最初に、報告団体より10分以内で、事業についての説明をしていただきます。時間管理について申し上げますと、まず、終了1分前に、1度ベルを鳴らします。

予定時間の10分を経過したところで、2度ベルを鳴らします。

説明が終わりましたら、市民活動推進委員会委員からの質問やアドバイスなどを行います。こちらは6分以内を予定しています。

説明中に2度ベルがなりましたら、途中であっても速やかに説明を終了してください。思いのこもった事業を短い時間でアピールすることは大変なこととは思いますが、円滑な進行に御協力いただきますようお願いいたします。

また、質疑応答の途中でベルが鳴りましたら、その質疑を最後の質疑とさせていただきます。質問される委員及び回答なさる団体の皆さまには、1問ずつ、できるだけ簡潔なやりとりをお願いしたいと思います。

なお、本日の報告会の様子を撮影し、市ホームページや広報紙等に活用させていただきます場合がございます。予め御了承いただきますよう、お願いいたします。

最後になりますが、この補助金は、市民活動げんき基金を原資とする補助金です。冊子5ページから6ページにかけて、御寄附いただいた方々を記載しております。

また、令和5年度事業は、株式会社ゴルフダイジェストオンライン様からの

企業版ふるさと納税も活用して補助を実施しております。

皆さまからの御寄附がなければ、この補助金はいずれなくなってしまうと思います。会場内には、市民活動げんき基金の募金箱を用意しております。御来場の皆さまにおかれましては、制度の趣旨を御理解いただき、どうか御協力いただければ幸いです。

それではただいまより、各事業の報告を開始いたします。

最初に、譲渡会、保護犬を知ろう幸せ家族探し会、湘南 1Leben さんより御報告いただきたいと思います。

御準備のほどお願いいたします。

それではよろしくをお願いいたします。

(湘南 1Leben 発表)

○事務局

それでは質疑応答に移ります。

山田委員長よろしくをお願いいたします。

○山田委員長

では委員からの質問、コメントがありましたら御発言ください。

○坂田副委員長

私も楽しみにしていた活動でしたので皆さんのインスタなど全部拝見させていただいて、必要な物品等が購入できてよかったと思って拝聴いたしました。

今年度 31 頭に新しい家族が見つかったということですが、これまでは年間でどのくらい家族が見つかることができたのか、それから、パネル等での啓蒙活動の反響、効果を教えていただけたらと思います。

○湘南 1Leben

コロナ禍などもあって、バラバラですけれども、4 年で大体 120 頭くらい、年間 40 頭くらいになります。

団体によって譲渡数は様々ですけど、うちは相当低いです。

なぜかというところ、丁寧な譲渡、安全な譲渡しかしておりません。ですので、40 頭がベストかなと思っていて、他の団体だと 200 頭というところもあります。

啓蒙については、私は実際に被災地の石川県の方に入ったりして、途中経過を見てきましたので、被災地の写真もパネルに展示させていただいたりしまし

た。

皆さん涙する方もいて、この話本当なのと聞いてくださる方もいました。

今回、市民活動サポートセンターのこどたんでは、全く知らない方、子どもたちの親御さん、お子様たちもそうだったのですけれど、全く知らない方たちが本当に心を痛めて涙して、スタッフ全員が足りないくらいお話をさせていただきました。

○坂田副委員長

命を大事にするということで、啓蒙活動は、引き続き継続していただきたいと思えますし、今回の成果がもっともっと伝わるといいなと思えます。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

○藤間委員

私はわんにゃんマルシェに行かせていただきました。

入場制限もすごくきちんとされていて、わんちゃんたちが興奮すると、本当の良さを出せないということがあるからだと思うのですけれども、一人一人に対して入口のところで説明していただいてから入れていただきました。

スタッフの人が、わんちゃんに対してすごく目配りをされていて、来て下さる方によさがわかるようにされているのが凄くわかって、とてもいい会で本当に頑張られている姿が見られてとても感動しました。

スタッフさんは、様々な組織の方が来られていたと思うのですが、こんなにたくさんの方が、命のために一生懸命活動しているという姿を外から見ただけでも、本当にいい時代になったと感じました。

そして、すごく大変だと思うのです。わんちゃんは言葉が通じないし病気も伝えられないし、最初慣れてない人に体を触られることさえ大変なところから、信頼関係を作っていくことは一朝一夕ではないので、その中でスタッフさんを信頼して、サークルの中で来場者の方に一生懸命頑張っている姿にとっても感動しました。

茅ヶ崎市内で、命を大切に活動が続けてくださったことありがとうございます。

私も SNS を見て、御家族が決まった時などにコメントをすると、すごく熱い文章でお返事いただけるのですよ。

本当に温かい方々がやってくださっている団体だとわかるので、頑張らないで保護犬がゼロになることがおそらく目標だと思うので、頑張っていくことが

ゴールだとは思っていないのですが、これからも頑張ってくださいと言わせていただきたくてマイクをお借りしました。頑張ってください。

○山田委員長

これで時間になりましたので、質疑応答は以上させさせていただきます。
どうもありがとうございました。

○事務局

続きまして、子どもの権利を遊びながら知るコラボ学習会、ふらっと南湖さん御準備の方お願いいたします。
よろしくお願いいたします。

(ふらっと南湖発表)

○事務局

それでは質疑応答に移ります。
山田委員長よろしくお願いいたします。

○山田委員長

委員からの質問コメントがありましたらお願いいたします。

○市川委員

すごく大切な学習会の内容で、どれもすごくよかったと思います。
ただ、特に性教育の事業について男性の参加が少なかったとおっしゃられていて、他の事業の参加人数も、せっかくだいい内容ですので、これからのことを考えると増えるといいと思いました。
そうすると、どう広報するかが今後にも繋がってくると思ったのと、これはコメントですが、市議会議員の参加が6名ほどあったということですので、市議会議員の方たちもきっとアンテナを張ってくださっていると思うので、継続的にお声掛けをしていただいて、広報のお手伝いをしていただけるような形になると良いと思いました。

○ふらっと南湖

広報は、この二つについてはFacebookと南湖ハウス通信だったと思うのですが、3については、別にチラシを配って図書館などにチラシを置かせていただきました。

広報をどうしたらいいのかについては私もまだ課題で、むしろ教えていただきたいという感じです。

○市川委員

やはり、知らない方にできるだけ届けるところがすごく難しいと思いますので、他の団体さんもそうだと思いますし、試行錯誤にはなりますが、ホームページや SNS は地道に活用していくことと、効果がどうだったのかは常に検証していかないといけないと思いました。

先ほど御発言にもありました市議会議員など人づてで少しずつ伝えていただくというのもすごく大事だと思うので、来年の活動を含めて頑張っていたければと思います。

○山田委員長

他にはいかがでしょうか。

○山口委員

自分にも子ども時代があり、そして自分も子どもを持ちながら、正直子どもの権利についてこれまで考えたことがなかったので、こういうことがあるのだと改めて知ることになりました。

この講座があつたら行くかと考えてみたのですが、やはり開催が平日の夕方だと、勤めている方は参加しにくいではないかなと思いました。働いている我々はなかなか平日の夜は出られないので、そういう時間も考えていただいたほうがいいのではないかなと思いました。

質問は、この制度を活用しなかったらこういう活動ができなかったなど、具体的に活かせたと感じていることがあれば教えていただきたいと思います。

○ふらっと南湖

3年を総括して申し上げると、1年目は本当にスタートで、報告会とかこの流れ自体理解もできなかったのですけれど、きちっと報告をして団体としてきちっとしなければいけないだとか、領収書を集めて報告するというところは、すごく勉強になったと感じています。

あと、前年度は、謝金が多く使えるということで、事業に必要な団体への謝金として使えたこともすごく大きかったと思います。

あとはこの南湖ハウス通信の紙代等にに使わせていただいて、今回は4万6000円ほど返金したのですけれど、だんだんと使わなくなったのも、卒業するいいきっかけになったと感じています。

○山田委員長

それでは時間になりましたので、以上とさせていただきます。

○事務局

続きまして、女性防災会議防災ブレイクスルー、マザーアース茅ヶ崎さんより発表いただきたいと思います。

それではよろしく願いいたします。

(マザーアース茅ヶ崎発表)

○事務局

それでは質疑応答に移ります。

山田委員長よろしく願いいたします。

○山田委員長

では委員からの質問、コメントをお願いします。

○若林委員

おっしゃる通り行政側の防災対策において女性の視点は非常に重要なことだと思っています。

主管課である防災対策課にも女性職員が数名しかいない状況の中で、女性の視点をとらえて、防災対策をやらなくてはいけないと思っはいるのですけれど、なかなかそこまで踏み込めていない現状があります。

今回、行政側からオファーがあつて、取り組みを一緒にやってくれないかとお話があつたということですが、もう少し具体的に教えていただけますでしょうか。

○マザーアース茅ヶ崎

女性防災会議って何というお題でお話を最初にいただいて、防災対策課の方たちも皆さん、女性の力を使いたいということですので、女性防災会議をもっとやわらかく皆さんに知っていただくため、みんなの防災展には 400 名近い方が来て、私は最初だったので、それでも 60 名ぐらいの方が、皆さん聞いてくださっていて、その方たちに、井戸端会議ですよという形で、今までの経緯とか今後は女性を活用していくべきだということをお話をいたしました。

先ほど言ったように反応がとてもみんなやわらかく、反発とかがなく、うまくいったのですごく嬉しかったという形です。

○若林委員

行政職員の気づき、意識の変革にも繋がっていくことだと思いますので、引き続き頑張っていたいただければと思います。

○山田委員長

他にいかがでしょうか。

○高山委員

それぞれの地区では、自治会を主体に防災組織が様々な活動をされていて、今回の活動いただいた内容は、最終的にそういった既存の防災に取り組まれている団体と一緒に、地区全体の組織の中に落とし込んでいければ、皆さんの考えられている様々なアイデアが反映されると思います。

昼間に家にいるのは共稼ぎが多いとしても、子どもか、お母さんなので、日中何か起きて、お年寄り、そういう地域に残った方々がいかに協働して、緊急時に対応するのか、やはり一緒になって動いていただくのが最終の姿ではないのかとお聞きしていて感じたのですけれど、地区の防災の方々とはどのようにビジョンをお話されているのでしょうか。

○マザーアース茅ヶ崎

私自身も海岸地区まちぢから協議会の副会長であり、防災安全部会長をやっております。

その中で、地域でできることと、私たちマザーズアースのような市民団体でできることの内容が違って、一長一短があります。

令和6年度は、1年間この補助金の申請を休んで、まちぢから協議会で事業をやろうとっていて、それは最終的にどこを接点としたら、うまく今後の事が運んでいくのか、現状を認識したいと考えています。

今の状態で一緒になにかをやることは、かなり難しいところが現状あります。いろいろ試してみたくて、それをまた一歩前に進めるために、今回1年間は地縁団体の中で何ができるかをしっかり考えたいと思っております。

○山田委員長

最後にもう一つコメントや質問が可能ですが、いかがでしょうか。

○市川委員

これはコメントですけれども、今後学校現場でも、啓蒙活動に力を入れていきたいとおっしゃれていましたが、防災は本来特別なことではなく、日常的に工夫しておかないといけないことだと思っていて、私も小学生の息子がいますが、仕事をしながら生活していると、なかなかそこまで考えが及ばないので、学校現場と繋がっていただくことで、お母さんとも繋がりやすいと思います。

報告書にもあった大きい講義という形よりも、小さなワークショップ的な形で、しっかり学べる、安全が確保された中で、知識を吸収でき場をマザーアースさんがハブとなって、たくさん地域で、茅ヶ崎市内の中でたくさん行われていくと、すごくありがたいと思いました。今後の活動もぜひよろしくお願いしたいと思います。

○マザーアース茅ヶ崎

そうやっていきたいと思っています。学校防災は非常に大切で、しっかりとできているかという少し自信がないですが、ただ、市民団体として教育委員会となにかをすることはなかなか難しいのが現実ですので、まずは地縁団体から入っていく方が可能性はあると思っていますので、その辺をしっかり見据えていきたいと思っています。

○山田委員長

時間となりましたので質疑応答は以上とさせていただきます。

○事務局

それではここで休憩の時間をお取りしたいと思います。

11時18分から再開させていただきます。

(休憩)

○事務局

では再開させていただきます。

続きまして、スローコミュニケーションプロジェクト、小冊子作成及び音声認識の店舗実証と合理的配慮の市民周知事業、一般社団法人 4Hearts さんより発表していただきます。

(一般社団法人 4Hearts 発表)

○事務局

それでは質疑応答に移ります。

山田委員長よろしくお願ひいたします。

○山田委員長

委員からの質問、コメントがありましたらお願ひいたします。

では皆さんが考えている間に一つ伺います。

スローコミュニケーションプロジェクトのいろいろな理念が語られることになった1年ではなかったかと思ひます。その点において、言語化して伝える上でとても苦勞した点や、うまく取り組めて、このように繋がってうれしかったという活動のエピソードがあればぜひ教えてください。

○一般社団法人 4Hearts

私たちの活動は日本全国で見てもあまりないもので、ロールモデルがないのです。

ですので、いかに社会にわかってもらうか、そして聴覚障がい者だけではなくて、いわゆる高齢者とか外国人とか、子どもとか、聴覚障がいの中でも比較的軽度で、本当は困難さを抱えているけど、何とか日常生活をやり過ごしてしまっている人の方が実は圧倒的に多くて、そういう人たち、見えない存在をいかに伝えていくかがすごく難しかったです。

キャッチフレーズなどで知っていただけるのかを考えたときに、例えば、スローコミュニケーションプロジェクトだと、スローライフそれにスローフードに、第3のスローとして、スローコミュニケーションというものが必要ですよとか、そういう伝えるフックのようなものを考えるのがすごく大変でした。

ですが、そのおかげで今は社会人のプロボノの方が3名関わってくださっていて、本来は3ヶ月間コミットすると決まっていますが、引き続き4Heartsに関わりたいと言ってきて、1年以上関わってくださっていて、その人たちが関わる中で、4Heartsの伝えたいことがわかってきたので、今度はその人達がノートで発信してくれる形になったところです。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

○山口委員

私も正直、障がいを持った方と触れ合う機会はほとんどなくておっしゃる通りだと思ひました。

先ほどのマザーアース茅ヶ崎さんの話も含めて考えると、災害の時などは、障がいを持った方は日常の生活以上に困るのではないかという気がしまして、そういう取り組みも考えていったほうがいいではないかと感じたのですけれども、災害時のことはどのように考えられておりますでしょうか。

○一般社団法人 4Hearts

実は私が神戸市出身でして、阪神淡路大震災の被災者です。

叔父も亡くなりまして、祖父母も家が全壊して、1月17日に被災して、学校に戻れたのが5月でした。死者が一番多かった東灘区に住んでいたのも、近くの方が亡くなったという話をすごくよく聞く環境にいました。

5月くらいにやっと復興が始まってきて、建築しているところが出てくると、夜間その近くを歩くなと言われてたのです。引きずり込まれるから。そういう経験もあるので、実は8月に防災士の資格を取ろうとっていて、防災のことも伝えていけたらと思っています。

○山口委員

ぜひ防災士の資格を取られて、活動につなげていただければと思っています。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

○坂田副委員長

私の周りにも聴覚障がいや視覚障がいの方がたくさんいますし、日頃市民活動センターにいますので、そのような方々との交流もあり、非常に関心高くこの4年間見守らせていただきました。

今回が本補助金の最終回で、こんなに素晴らしい冊子ができ上がっていますが、これを作る際にどんなところに御苦労があったのか、先ほどインタビューの難しさを教えていただきましたが、この紙面構成とか、どう世の中の人に訴えていこうと考えたのか、その辺を聞かせいただければと思います。

○一般社団法人 4Hearts

私たちの活動は、聴覚障がい者に向けたものではなくて、どちらかというと、曖昧な困難さを抱えている人だったり、あとは社会だったりします。

まず私たちの存在を認識していないことが多くて、例えば車椅子などの目に見えやすい障がいは、エレベーターをつけなきゃいけないとか、点字ブロック

が必要だということは周知されていますし、さらにその点字ブロックの上に自転車を置いちゃいけませんという意識は大分定着してきています。

ですが、コミュニケーションバリアについてはもう完全に周回遅れで、例えば音声認識が日常の様々なところに、当たり前のように置かれているとはなっていないですし、例えばコミュニケーションボードを作って配布しても、その上に商品が置かれているとか、そういう状況で意識がまだ定着してないのですね。

そこを意識してもらうために、小冊子でどうやって伝えていくのかということころはすごく難しかったと思います。

それもあって、少しサイボーグな感じの表紙にして、少しでも関心を持ってもらいたくて、何これ、かっこいいね、みたいな感じで開いて欲しいなという思いがあったのでそういった工夫をしています。

○坂田副委員長

本当に素敵な表紙で、手に取ってみたいくなる冊子に仕上がっていると思います。

実は平塚でも UD ダンスでカフェを始めている団体もありますし、子どもたちを盲学校に通わせているお母さんたちが、新たな団体を立ち上げて、子どもたちの最終的には就労までつなげるような団体を作りたいという相談も入っているのです、よかったらぜひ交流を持たせていただけたらありがたいです。

ぜひ今後ともよろしく願いいたします。

○山田委員長

時間ですので質疑応答は以上させていただきます。

○事務局

続きまして、がんサバイバーのためのワークショップとコミュニティづくり、ガーゼ帽子を縫う会さんに御報告させていただきます。

それではよろしく願いいたします。

(ガーゼ帽子を縫う会発表)

○事務局

それでは質疑応答に移ります。

山田委員長よろしく願いいたします。

○山田委員長

では委員で質問、コメントがありましたらお願いいたします。

○市川委員

参加者の方への異次元の気づかいがすごく素敵な活動だと思いました。

直線縫いが始まったところで自己紹介を始めるなど、大前提としてお話が苦手な方もいることを、ワークショップとコミュニティづくり事業にも関わらずそういう方もいるという認識をされていることが、本当に素晴らしいと思い、感動しました。

今後のことを考えると、今おっしゃられていた課題の認識もとてもしっかりされていて、素晴らしいと思うのですが、参加者の方の御負担、参加費ですね。

皆さんの御負担にならないようにという金額設定だと思うのですが、こういった補助等が出なくなったときに、もう少し参加者の方から御負担をいただいてもいいのではないかと思うような充実した内容だと思うのですが、体感として、参加者の方からいただくことに関してはどのようなお考えなのかなと思いました。

○ガーゼ帽子を縫う会

私が当事者というのもありまして、やはりがん治療はすごくお金がかかるのです。高額医療費制度もあるのですが、それでも月に最低でも5万円はかかってきます。

そんな中でも、やはり、誰かと繋がりたいとか、孤独を感じないようにしたい、外見が変わってきたりもするので、どうしても閉じこもりがちになる私達みたいなサバイバーが表に出て行く勇気を出すというときに、かかるお金をできる限り抑えたいというのが本音です。

ただ、ガーゼ帽子を作るにしても、生地代がどうしてもかかってきますので、生地代だけは、もちろん自分が持ち帰るという前提で作ってもらう場合にいただこうかなとは思いますが、今まででもやはり1,000円くらいまでしかもらったことがないです。

生地代もすごく安いところで、買えば別ですが、なかなか全部が全部そうもいなくて大体800円弱ぐらいは全体でかかってしまうので、団体としての利益みたいなものには繋がらないのが現状です。

○市川委員

おそらく、帽子も作るのであれば素敵なものだと思いますし、その辺はクオリティを下げないといけないと思いますので、参加者の方のハードルを下げるという意味では、妥当な金額なのかなとお話を伺って思いました。

本当に、市民の誰もががんにかかる可能性は持っているので、本当にこういう活動がもっともっと市民の中で知られると良いなと思いました。

ぜひ今後とも頑張ってください。

○山田委員長

一つ教えていただきたいのですが、今回もアンケート、それから参加者の声を丁寧に集めていらっしゃるところが印象的でした。

これについて、特に配慮が必要で工夫なされた点や、答えにくいようなところを聞かなければいけない時に、このようにすると聞きやすくなった、話しやすくなったといったエピソードがあればぜひ教えてください。

○ガーゼ帽子を縫う会

今回は皆さん申し込みのときに、お名前お伺いしています。ただ、会に来たときには、お名前は別に伏せても構わないので、あだ名や呼び名を書いてもらっていて、アンケートに関しても、回収しない方、あと中には抗癌剤治療で手がしびれて、針で直線縫いはできるけれども、字は書けないとか、字を書きづらくなったのを人に見せたくないという方ももちろんいらっしゃるのですが、強制せずに、お気持ちで書いていただければ結構ですという形にしました。

○山田委員長

そういう方もだんだん皆さんの雰囲気慣れてくると、積極的に語りの方に移ってくるが多かったですか。

○ガーゼ帽子を縫う会

やはり涙を流される方がいると、泣いていいとか、こんなことをしゃべってもいいのだとやはり皆さん安心するのですね。

ですので、その方は泣いちゃった、となるのですが、私たちからすると、ありがたいではないですが、やはり開催する側と受けられる側は立場がどうしても違うので、受けている方の中でそういう雰囲気を持ってきてくれる方がいるとすごく助かると思っています。

○山田委員長

時間となりましたので、以上で質疑応答を終了させていただきます。

○事務局

以上で予定しておりました 5 事業の発表が終了いたしました。皆さま発表

ありがとうございました。

それではこれより総括質疑に移ります。

総括質疑とは、市民活動のさらなる発展や、市民活動げんき基金補助制度の向上などを目的に、委員の皆さま及び団体、傍聴の方々から、日頃の活動の中で感じられていることについて、忌憚のない御意見を述べていただくとともに、会場内で意見交換をしていただくものです。

ZOOMで御覧になられている皆さまも、Q&A機能で御質問をいただければ、職員が代読して質問いたします。

なお、質問が多い場合などは、時間の都合上、全ての御質問を御紹介できないこともありますので予め御承知おきください。

総括質疑の進行は、山田委員長と交代させていただきます。山田委員長、よろしく願いいたします。

○山田委員長

皆さん御報告ありがとうございました。

ここからはフロア全体のディスカッションです。時間の都合でお話になれなかったこと、それから聞くことができなかったことなど、自由にお聞かせいただければと思います。

先ほど、質疑応答の時間不足で、委員の側でこんなこと聞いてみたかったということがありましたらお話しくださいと思いますがいかがでしょうか。先ほど船山委員の質問の時間をとれませんでしたので、もしよかったら先に御質問ください。

○船山委員

4Heartsさんに質問があったのですが、最後の方のお話で、政策提言にまで持っていきたいという発言がありましたが、もし、思い描いているものがあるようでしたら、お聞かせいただきたいと思ひまして質問させていただきました。

○一般社団法人 4Hearts

三つありまして、一つが音声認識の導入補助金。障がい者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法は2020年に制定されまして、ちゃんと行政も予算をつけてくださいという法律はできたのですが、それがちゃんと運用されているかというところ少しはてな(?)がつくような状況ですので、具体的に音声認識の導入補助金につなげていきたい。

もう一つが子どものインクルーシブ教育をしっかりとしていきたいのでそういう授業をちゃんと設定してくださいねという政策について。

あともう一つは、心理支援です。障がい者雇用率がこれから上がっていくのですが、職場での当事者のピア（仲間同士）の心理支援がなかなか難しく、ジョブコーチが来ても、当事者のことがわかっていないということが多数起きています。特に就労支援的なところで、特に手話ができる場所は、全国で2ヶ所しかない。難聴の方も含めて3ヶ所しかないのです。更に、市役所等に申請しないとその施設は使えないというような様々な制限があります。

私が最後に示しました場所づくりの中では、そういった制限なく、いろいろできるような、企業さんからも様々委託を受けて相談を受けられるような状況にしていきたいと思っていますので、その心理支援も提言していきたいです。

○山田委員長

それではここからは団体の皆さんからも自由に意見交換や、或いは情報交換をしていただきたいと思います。

○ふらっと南湖

まず発表を聞いて、皆さん共通することはやはり広報の部分がすごく大きいと思いました。

最初の説明の中でも、今まで190団体以上がこの補助金を使っていて、皆さん多分同じようなところではないかと想像がつくのですけれども、市民自治推進課の方が、要のところにはいらっしゃいますし、毎年出ている意見のだと思うし、できることがあるのではないかと私は感じました。

というのは、今回の報告の中でも、参加したかったと思うものが幾つもあって、そこはやはり掴んでいる市民自治推進課が常に、例えばホームページの1ページで、リンクを貼って飛べるような、この5月何日から何日まではどういうスケジュールで活動しますとか、そういうのを把握しているのであれば、そういうことがわかるようにしていただきたい。私たちがそこにアクセスして、何だ、ここだったら協働できるのではないかと。そういうことができれば、今日の目的にもかなうことができるので、それはぜひやっていただきたいと思います。

○山田委員長

いかがでしょうか。

○事務局

皆さま方がこの基金を使って実施していただく事業は、広報紙やホームページ、広報掲示板などを活用して周知に取り組んでおります。

今おっしゃっていただいたように、団体間でなかなか連絡が通じていないという御意見をいただきましたので、支援を受けられている団体がこのような事業をしますという広報の方法、横の連携がもっと広がるような取組について検討したいと今お話を聞いていて思いました。

○ふらっと南湖

団体と言っても今日も 10 数団体ですので、もう一步、そこまでいかないかわからない、情報を取れない状態ではなく、私達がアクセスしやすい形、市民団体の方は関心があって、情熱があってここにきている人たちですので、そこからどんどん広がるものはかなかなりあると思うので、もう一步お願いします。

○山田委員長

続いて、いかがでしょうか。

或いは今の御意見について、さらに御自身の経験踏まえての御発言などいかがでしょうか。

○ガーゼ帽子を縫う会

本日は、こういう機会作っていただきありがとうございます。

今おっしゃられた市民自治推進課へのお願いというのは、おそらく、今までこの補助金受けられた団体のトータル的な名簿のようなものがあって、ホームページでアクセスできるようなサイトが 1 ページできればいいのではないかと感じました。年度ごとに、団体でも繋がらない団体とかが結構あるので、年次ごとの、自分たちがやっていることと近い団体があるのか、今までの団体の中から探し当てるのが一番、横の繋がりができてくると思うので、そういったところを市民自治推進課で今後練っていただいて、今まで補助金を活用した団体はこういうところがあります、というのがあると、非常にこれからも役に立つのではないかなと今の意見を聞いていて思いました。

○山田委員長

そうしたアーカイブの機能を今後どのように使っていただけるのかというところは、御意見としてよく理解できる場所でした。

今の点について、少しだけ茅ヶ崎を離れて客観的、抽象的な議論で申し上げます。自分が把握しているレベルでは、例えば各地域の市民活動団体の広報の問題としては、ふらっと南湖さんが御指摘くださったように、あまり変わらない共通の問題点の一つとは言われているのですけれども、広報の質と量については、時代や時間とともに大きく変化しているという実際があります。それぞ

れそのタイミングで、団体の皆さんが悩んでいる内容が少しずつ違っているというのが広報の課題の実際です。一番大きいのが SNS の活性化の前と後では、問題点の挙げ方にすごく大きな変化があります。

それから、SNS が定着してきた後に、市民活動団体の皆さんがそれをどう使うのかが、質の問題として挙げられてきています。

この補助金のような審査の機会です。必ず話題に出るのは、もっと SNS で広報してはどうかということです。SNS の受け手の問題からすると SNS は多様化していて、メディアが年代やグループによって全然違っているということが、今各地で言われています。

ですので、広報の問題は非常に重要ということは誰もが認識をしているのですが、逆に多様化しているからこそ、これだという決め手が、自治体の側にも、団体の側にもないことが課題です。こういったところを議論しながら広報のスタイルを作り上げていくことが、おそらく茅ヶ崎のこれからの PR のあり方になっていくのではないかと、今日も感じるどころがありました。こういう機会にそういった御意見をちょうだいできるということは大変重要だと思いました。

むしろ、本補助金を卒業された後も、引き続き、こういう広報のあり方がいいのではないのか、茅ヶ崎らしくていいのではないのか、といったところはお知らせいただくと、私たち委員会としても、それから自治体としても、団体の情報共有のあり方としても、望ましい必要なところが見えてくるのかなと思います。当然、時間が経つとまた新しい問題が出てくるので、解けない悩みの一つではあるかと思えます。そこにチャレンジしていくことは意味のあることではないかと、同時に考えています。

いずれにしても御質問は大変参考になるものでした。

ありがとうございました。

他にはどうでしょうか。

○藤間委員

私はずっと子ども関係の仕事をしていて、今も転職して児童館で仕事しているのですが、娘も小学校の保健の先生になって、子どもにとってどうしたらいいのかということと娘と常に話し合っています。

今回発表いただいた中でも、子ども向けのイベントや、本当に子どもが楽しいこととか、例えば性教育等でも、本当に小学生の小さいお子さんとかに聞いて欲しい内容だと思いました。

小学生さんとか中学生さんが狙われる案件とか聞くと心が痛いですし、そういう周知をしてもらいたいけど、なかなか伝達することが難しいと感じていま

す。

保育園の立場とか小学生の立場、今小学生がたくさん来ていろいろ話していると、やはりこういう素敵なイベントがあって、みんな見たら絶対に行くだろうと思いますが、広報が難しいとお話がありましたが、パンフレットとかリーフレットを見るとやはり大人向けという感じがすごくしました。

児童館で張り出したり、配架したりしたいと思うのですが、子どもは、これは読めないとか、表紙は素敵だけど漢字が多くてルビ振って欲しいなどすごく思いました。

本当に知って欲しい、やって欲しいとすごく思うのですが、もう少しチラシなど作られる時に考えていただけたらと感じました。

子ども関係の仕事をしている立場からすると、とても広報しやすく、子どもたちにも説明しやすい。親御さんも多分手に取りやすいし、今の小学生の感度は高く、このレベルでチラシを作ってくれたら、小学生でも幼稚園でも多分手に取ると思います。

ですので、子どもが好きそうなかわいい絵が書いてあるとか、色がとても素敵とかと併せて検討いただけたらすごく子ども関係の仕事をしているものとしては嬉しいです。

○山田委員長

それぞれ皆さんの今後の広報の中身、あり方についてぜひ御検討の材料に加えていただければと思います。

最後に団体の皆さんから今のことについてのリプライですとか、一言でも構いませんがもしあればお伺いします。

もしなければ、そろそろ時間ですので、この場は終了とさせていただきますと思いますがいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは以上をもちまして総括質疑の時間を終了させていただきます。

皆さんありがとうございました。

○事務局

皆さまありがとうございました。

では、引き続き山田委員長より閉会の御挨拶を申し上げます。

○山田委員長

皆さまありがとうございました。

本日の発表、それから報告書ではたくさん学ぶところがありました。

今回、皆さんのお話を伺っていて特に思ったことは、啓発啓蒙といったキーワードがすごくたくさん出ていた点です。市民と皆さんとの非常に重要な繋がりであり、コミュニケーション内容だったのでしょうか。

だから、最後の総括質疑でも、広報やPRといったところに話が繋がったのだと思います。

行政用語でいう啓発、それから一般的に使われている啓蒙という言葉は、英語でいうと enlightenment になります。

直訳すると光をともしという意味でもあり、市民活動が光をともしように、どんどん繋がっていくことは、まちにとってすごく素敵なことだと、今日は自分の中で非常に大きな学びがありました。

たとえ小さい、或いは弱い光であったとしても、点々と地域の中に、そういった光が灯り、それが伝えられ灯されていくことは、世の中を明るくしていくことではないかと感じます。これで本補助金を卒業ですというお話もありましたが、引き続き様々なところで御活躍をくださると思っておりますので、それぞれのチャンス、それから次の実働の機会がさらに皆さんの発展に繋がることを祈りまして、閉会の御挨拶と代えさせていただきたいと思います。

本日はありがとうございました。

○事務局

山田委員長ありがとうございました。

以上をもちまして、令和5年度実施市民活動げんき基金補助事業実施報告会ステップアップ支援の部を閉会いたします。

会場出口にて、市民活動げんき基金の募金箱を設置しております。会場にいらっしゃる皆さま、お帰り際には、御協力をいただけると幸いです。本日は長時間にわたり、ありがとうございました。

なおスタート支援の部は13時30分から開会させていただきます。

御興味のある方がいらっしゃいましたら、またこの場にお集まりいただければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

(午後 スタート支援の部)

○事務局

皆さまこんにちは。

本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただいまより、令和5年度実施市民活動げんき基金補助事業実施報告会スタ

ト支援の部を開会いたします。

本日の司会進行を務めます市民自治推進課の三浦と申します。よろしくお願いいたします。

それでは最初に、市民活動推進委員会の山田修嗣委員長より御挨拶を申し上げるとともに、各委員を御紹介いたします。委員長よろしくお願いいたします。

○山田委員長

皆さんこんにちは。

山田と申します。

市民活動推進委員会を代表しまして、簡単に一言御挨拶と、それから委員の紹介をさせていただきます。

皆さん御存知の通りこのげんき基金補助事業は、市民活動を推進するための環境を整備し、市民活動の活性化を図ることにより、活力溢れる地域社会の実現を目指すことを目的として、平成 17 年度から実施している事業です。

私たち委員は、この仕組みに基づいて、皆さんの活動を拝見し、報告を聞かせていただく中で、どのようにすれば本制度がより良く運用できるのかについて検討するなどの活動をしております。

従いまして、今回の皆さんの報告も、委員から質問やコメントをさせていただくコミュニケーションの機会という趣旨があると同時に、団体間の横の繋がりと、皆さん同士がうまく連携をして、市の中で活躍していただくための機会でもあると、お考えいただくといいのではないかと考えております。

これまで約 190 の事業がこの補助金の枠組みで活動をしてくださっています。中には協働推進事業ですとか、それから行政の委託事業に発展したものもあり、市民活動の土台、それからその後の市民活動のさらなる発展に、大変役割を果たしている事業ではないかなと思います。

今日は午前中にすでに 5 団体、午後が 7 団体、全部で 12 団体の皆さんの報告を伺うことになっております。

それでは、記載順に委員を紹介させていただきます。

(各委員紹介)

限られた時間ではありますがどうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局

委員長ありがとうございました。

なお、本実績報告会では、ZOOM のウェビナー機能を使用して映像配信をし

ておりますので御承知おきください。

それでは、本日の報告会の流れについて、簡単に御説明申し上げます。お配りしております市民活動げんき基金補助事業冊子を御覧ください。

本日、これから16時30分ごろまでのお時間で、令和5年度に実施した市民活動げんき基金補助事業のステップアップ支援枠の7事業について報告をいただく予定です。

発表の時間配分について御説明します。最初に、報告団体より10分以内で、事業についての説明をしていただきます。時間管理について申し上げますと、まず、終了1分前に、1度ベルを鳴らします。

予定時間の10分を経過したところで、2度ベルを鳴らします。

説明が終わりましたら、市民活動推進委員会委員からの質問やアドバイスなどを行います。こちらは6分以内を予定しています。

説明中に2度ベルがなりましたら、途中であっても速やかに説明を終了してください。思いのこもった事業を短い時間でアピールすることは大変なこととは思いますが、円滑な進行に御協力いただきますようお願いいたします。

また、質疑応答の途中でベルが鳴りましたら、その質疑を最後の質疑とさせていただきます。質問される委員及び回答なさる団体の皆さまには、1問ずつ、できるだけ簡潔なやりとりをお願いしたいと思います。

なお、本日の報告会の様子を撮影し、市ホームページや広報紙等に活用させていただきます場合がございます。予め御了承いただきますよう、お願いいたします。

最後になりますが、この補助金は、市民活動げんき基金を原資とする補助金です。冊子5ページから6ページにかけて、御寄附いただいた方々を記載しております。

また、令和5年度事業は、株式会社ゴルフダイジェストオンライン様からの企業版ふるさと納税も活用して補助を実施しております。

皆さまからの御寄附がなければ、この補助金はいずれなくなってしまいます。会場内には、市民活動げんき基金の募金箱を用意しております。御来場の皆さまにおかれましては、制度の趣旨を御理解いただき、どうか御協力いただければ幸いです。

それでは、ただいまより各事業の報告を開始いたします。

最初の団体は、チアフル、陽気に楽しくみんなでつながろうについて、チアフルさんからの御報告です。

御準備のほどよろしくお願いいたします。

それではよろしくお願いいたします。

(チアフル発表)

○事務局

それでは質疑応答に移ります。山田委員長よろしくお願ひいたします。

○山田委員長

では委員からの質問やコメント等ありましたらお願ひいたします。

○市川委員

お子さんの体調のことや、インフルエンザなど、本当に想定外のトラブルや出来事がありながらすごく頑張られたのだなと思いました。

一つ質問ですが、参加者がすぐにいっぱいになったイベントがあったと思うのですが、その理由というのはなぜだったのでしょうか。

○チアフル

単に万人受しやすかったということだと思います。

障がいがある子とない子では、やはり身体的にも理解力的にもレベルの差があるので、一緒に楽しむものはなかなか難しく、芋掘りとかボールを投げるとか、そういうものだと割と楽しみやすいです。

障がいがある子で来てくれたのは少し知り合いが多かったのですが、SNSを見て、全然知らない方が5組くらい家族で来られたので、その会に関しては本当にびっくりしたのですが、そこからまた違う繋がりが生まれたりもしました。

○市川委員

ということは、おそらく畑で何かをするとか、何かを掘る、そういうコンテンツがすごく相性がいいということですね。

食育的な感じだと、きっと障がい者も健常者も関係なしに親も興味を持つので、SNSの発信のイベントとなると、やはり大人が興味を持ってそれに子どもがついてくるという感じですので、大人に受けたという感じがしました。

○山田委員長

そのほかにいかがでしょうか。

○藤間委員

上映会の参加者が27名でも、割と多いかなと思っていたのですが、もとも

との希望者は何人くらいいらっしゃったのですか。

○チアフル

最高 40 名くらいまでは受け入れようとしていました。

話し合いをメインにしたくて、ただ見て終わりではなくて、そこから考えて、子どもたちにどんなことができるかということを主に考えたかったので、人数はそこまで多くしないようにしました。

○藤間委員

ということは、これは小学生さんの方が多いいということですか、それとも大人が見られた方が多かったですか。

○チアフル

大人が多かったです。大人が興味を持って、それについて来た子どもも見た感じす。

○藤間委員

子どもがこの映画を見て、自分の学校でこうだったらいいなと思ってくれたらよかったですよね。

○チアフル

そうですね。それが本当はしたくて、茅ヶ崎の全校で上映会して、みんなで考えるというのもすごく大事な事かなと思います。

子ども主体の映画ですので、世の中が大人主体になってしまっているの、学校は何のためのものなのか、大人だけじゃなく子どもも考えて欲しくて、今だと従うとか、みんなと一緒にしなければならないみたいなのが強いので、そこを、みんなで、先生も子どもも含めて考えられたらと思ってやってきました。

○山田委員長

続いていかがですか。

○坂田副委員長

初めての本補助金へのチャレンジということで、様々大変なことを通り抜けながら、今日の発表になったかと思います。

1 年を通じて様々な反省や振り返りがあったと受けとめました。

インクルーシブな社会を作っていくことが、まさに今求められていると思

ますが。様々課題はおありだと思っておりますが、チアフルとして今後どう活動を続けていこうと考えていらっしゃるか教えてください。

○チアフル

マイノリティの主催は当事者側だとどうしても人が集まらないのですね。

どうしても、今のメディアとか、自分の発信もそうですが、インクルーシブという、障がい者のためのとか、障がい者が一緒にいるためにみたいな、そういう感じになってしまうのですけれど、包括的という意味ですので、本当は全員のためのものですが、それを理解していただくのは、なかなかこちら発信だと難しいので、今後は様々な団体さんと共催という形でやっていけたらいいのかなと、今回、様々限界を感じました。

チアフルだけだと障がい者のために、健常の人は関係ないみたいな感じになりがちですので、様々な団体さんの力を借りながらできたらいいかなということをごく思っております。

○坂田副委員長

まず変わらなければいけないのは私たち親の方ということですね。

○チアフル

そうです。そこが言いたかったです。ありがとうございます。

○山田委員長

それでは時間となりましたので、質疑は以上とさせていただきます。

○事務局

続きまして、うみこころみんなこの地球に生きる同じ命イロトリドリの命を大切に平和をつくる、うみこころさんより御報告いただきます。

御準備お願いいたします。

よろしくをお願いいたします。

(うみこころ発表)

○事務局

それでは質疑応答に移ります。

山田委員長よろしくをお願いいたします。

○山田委員長

それでは委員からの質問コメントがありましたらお願いいたします。

○藤間委員

子ども関係の仕事をしておりますので、こういう事業は本当にすごく興味津々で、講演も見に行きました。

今の子どもは、自分の家族の動物とかにはすごく優しいですが、それ以外のものには、コロナとかもあったからなのか、触っちゃ駄目とかそういう意識もすごく強くて、命に対する思いが軽くなっているとすごく感じていまして、私もすごく勉強になると思っで見させてもらいました。

映像で見るよりも、本当に一人一人に向けて話し掛けてくださっている感じで、見に来てくださっている方、演者の方すべての人が輝くように、ちゃんと声掛けをしながら、出演者の方がやられていて、会場すべてが命のきらめきのようなものにすごく満ち溢れていて、本当に生きていることの幸せ、みんなで歌うこと、みんなで踊ることがこんなにも楽しいということをととても感じさせていただきました。

ですので、茅ヶ崎の誇る文化として残って欲しいと思っていて、レッスンの回数もすごく多く、スタジオを借りるのはとても高いのですが、公民館等を借りてうまくやりながらも、自腹を切られるなど、様々な努力をされていることを聞いて、命のありがたさを伝えてくださったことに対して、子ども関係の仕事をしているものとして本当に良い事業だと感じました。

○うみこころ

とても励みになります。ありがとうございます。

○山田委員長

今の説明の中でもキーワードになっていた、共感、共鳴による理念の伝達が、今回うまくできたのではないかということで素晴らしいと思いました。

そこをあえて、言語化して言葉で説明すると、共鳴したことによる喜びとか嬉しさはどのように語れそうでしょうか。つまり、ステージは1回、リハーサルも数が限られている中で、このすばらしさを伝えていく手段は今後、語りになると思います。

その点で言うと、今回のこの御経験を皆さんとしてはどのような言葉で語ると、そういう思いに近いと感じたでしょうか。

○うみこころ

今回トラブルもあったため、見せる側としては、ちゃんと伝わっただろうか、伝わりきっただろうかと、とても思っ、アンケートの回答率も低かったりするのかなと思ったのですが、半分以上回収できていて、生きる力になったとか、このままでいいという思いだったり、自分の命を大事にしようと思った、みんな同じ命だと思った、優しくなれたなど嬉しい言葉が、見てもらうことで感じて欲しかった、感じ方に正解はないのでどんなに小さなことでもいいのですが、でもちゃんと心に残っていたのかなと思うと、やはり見てもらうことに意味があったと思うので、まずは感じに来て欲しいという思いがあります。

○山田委員長

見た側の言葉も大切にしながら、言葉でもきちんと響き合っていくといったところが、今回すごく強く感じたということでしょうか。

○うみこころ

あと、このあいだ思ったのは、息子が5歳なのですけれど、ごみが落ちていて、それを拾って、これがあつたら争いになっちゃうんだよね、と言ってきたのですけれど、ちゃんとそういう大人の背中を見ていれば、伝わるのかなと思うので、そういう思いの大人が多ければ、子どももそう感じてくれるのではないかと感じたので、発信はずっと続けていきたいと思っています。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

○坂田副委員長

ステージは本当にお金がかかるし、大変なことだと思うのですが、今後の展開として、継続するための資金について、どのようにしていくのか、計画がもしあれば教えていただけたらと思います。

○うみこころ

チャリティーライブに関しては、やはりチケット代をいただいて、ありがとうと言っただけで、それを必要なところに還元する循環を、まずはつくれたらいいなと思っています。

しかし、こういったステージを作ることには、本当に莫大なお金がかかるので、参加する子どもたちにも参加費という形でいただく、あとはレッスン費もいただきつつ、たくさん感じていただけるようにしていきたいと思っています。

あとは協賛をいただける企業さんがあるのであれば、そういった企業さんと

も出会いたいと思っています。

○坂田副委員長

子どもたちがこういう体験をするということにすごく意味があると思っています。

子どもがこういったところで、練習をしながら体験し、その成果発表の場があるということはとても大事なことだと思いますし、そこに親御さんはお金を払ってくれるのではないかと思います。

そういったところから少しずつ積み重ねていただけるといいかなと思います。

○山田委員長

それでは時間となりましたので以上で質疑を終了させていただきます。

○事務局

ありがとうございました。

続きまして、ボランティア養成講座子どもの現状と課題、子どもに対するコミュニケーションを学ぶ連続講座、一般社団法人リトルハブホームさんより御報告いただきたいと思います。

御準備をよろしくお願いします。

それではよろしくお願いします。

(一般社団法人リトルハブホーム発表)

○事務局

それでは質疑応答に移ります。山田委員長よろしくお願ひいたします。

○山田委員長

それでは委員からの質問、コメントをお願いいたします。

○高山委員

キャッチコピーなど何か一つ核になるようなものが欲しいと感じました。

それはなぜかと言いますと、子どもの現状と課題というのは、余りにも漠然としていて、賛同する、ぜひこういうことに参加したいと思えるような、キャッチコピーになるような、このイベントの中の一つでもいいと思うのですけれど、それが主軸になって繋がっていく、そしてそれが広がっていく形になって

いくと思いました。子ども食堂やボランティアというのは、様々なところに、大人の力が必要であり、子どもたちを育てていく意味では非常にいいことだと思うので、賛同者の人が、食いついてくれるような、この団体というイメージを一つ作り上げたらいいかと思うのですがどうでしょうか。

○一般社団法人リトルハブホーム

令和6年度の本補助金で目下構想中でございます。

最初、虐待や児童養護施設でアピールしていた時期もあるのですが、そうするとどうしても、マイノリティになってしまうし、自分とは違うみたいに感じられてしまうので、アピールの方法は模索していきたいところです。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

○藤間委員

こちらの団体のイベントも見学に行きました。

講師がとても素敵で、地域の子どもたちの心の支えになってあげるために声掛けをどうしたら良いか、とても勉強できて、とても良い講習でした。

私は今児童館で働いているのですが、幼児さんとか乳児さんに対しての考え方と、中学生小学生さんに対する考え方はとても違って、親御さんに対しての言葉かけとかも、保育園とはまた違うという感じでとても勉強になりました。

スタッフさんもすごく元気で良い方ばかりで、今の仕事での子どもの声掛けにはすごく今役に立っています。

熱い気持ちでいらっしゃっている方もいましたが、ボランティアまで繋がっていくことはなかなか難しいと感じました。

とても良い講座だったので、それをもとにボランティアまでつなげる方法があったらいいと感じています。

○一般社団法人リトルハブホーム

本補助金のおかげで、とても専門的な講師をお呼びでき、とてもわかりやすい説明をしていただいて、感謝しております。

今回、30名に拡大して、なかなか参加者さんとの関わりが持てなかったのがすごく反省点としてはありますので、今後に活かして、皆さんの気持ちが、ボランティア活動につながるような今年度の事業にしたいと思っています。

○山田委員長

それでは時間になりましたので、質疑応答は以上とさせていただきます。

○事務局

それではここで休憩の時間をお取りしたいと思います。

14時43分まで10分間休憩とさせていただきます。

(休憩)

時間になりましたので、再開させていただきます。

続いての御報告は、Family art day、ARTノTANEMAKiさんになります。

御準備の方よろしくお願ひいたします。

それではよろしくお願ひいたします。

(ARTノTANEMAKi)

○事務局

それでは質疑応答に移ります。

山田委員長よろしくお願ひいたします。

○山田委員長

では委員からの質問、コメントをお願ひいたします。

○藤間委員

私ほうみこころさんの公演を見に行った時に素敵な舞台設定があると思っ
ていて、それがARTノTANEMAKiさんだったので、心のこもったものは、視覚
的にすごく訴えかけるものがあって、とても素敵だと思いました。

保育園ではなかなか木材やトンカチを使うことが難しい状況になっている
中で、親御さんが見ている中で少し難しい素材を使って、工作をするというイ
ベントはすごくいい経験だったと思っています。

保育園がそういう素材が使えない理由としまして、集中力が続かないという
ことがすごくあります。この講座には、多動傾向のあるお子様に対する環境設
定と書いてあったので、どのようにやられていたのか聞かせていただきたいで
す。

○ARTノTANEMAKi

先ほどのチアフルさんのお話にもありましたけれども、本当のインクルーシブについて考えたときに、大人の社会の中に子どもが入っていくというより、子どもの社会の中で大人がどういう役割を持っているかというところに関わる問題だと感じています。

先ほど申しあげました通り、古民家を使っておりますので、室内は常にグルグルと回って歩けるような環境設定になっています。

お庭に出てもそうで、裏の細い路地を通るとすぐ車道に出てしまうような危険なところがあったので、緩やかに停止線ではないですけども、ここから先は入らないんだよ、ということがわかるようなものを置くことをしました。

人が座れるようなスペースを設けてその後ろからなかなか通っていきにくいみたいな環境設定をしております、ここから先はいきません、禁止ですか、黄色と黒のテープ貼ってしまうと、やはり大人主催のイベントだとなって、私としても悲しいので、そういうことではなく、通りにくいという環境を作って、そこに向かおうとしている子どもたちがいたときに、「今何をするか悩んでいるの?」という声をかけることをスタッフで共有しました。どう声をかけるかとか、そこから走って出て行かないようにするためにはどうしたらいいのかということを手前に打ち合わせをして運営しています。

○山田委員長

一つ教えてください。報告書とただ今の報告を見聞きする中で、すごく印象に残るキーワードとして、繋がる、繋がり、が大変多く登場してきたと思います。

アートが接着剤となって、様々なものが繋がっているように感じたのですが、そうした繋がり大切さで、今回お感じになったエピソードや感動、しましたとか、こんなところを見ることができてうれしかったということ、もう少し追加で御紹介いただけますでしょうか。

○ART / TANEMAKI

私たちが最終的にやりたいことは、教育の中にアートが入っているとか、アートを使って教育をするということではなく、アートとしての教育というものを目指したいと考えています。

今回、私たちが使っている繋がりというものは、幼児期に培ってきた現体験は、すべてに繋がっていると思うのです。

学問もそうだし、地域貢献もそうだし、環境保全に関してもそうだし、だから、企業廃材や素材を使うことが、環境保全にも繋がるかもしれないし、支援団体がある、こんなにたくさんの大人が、子どもたちの成長を見てくれている

という実感を伴ってくれるということにすごく意味があると感じているところ
です。

今回はアンケート結果にもありました通り、子どもたちの新しい姿を見られ
る。子どもたちに対してどういう見守りの目を持ってばいいのかということに、
保護者の方が意義を大変感じてくださったところが、まず一つ目です。

またそういう方々がコアのファンになっていってくれたということが二つ
目です。というのも、6月に今度開催をするときに3000円で価格設定しよう
と考えまして、前回の参加者の3分の1がすでに申し込みをしている状態に
なっています。

企業さんの方からも次はいつやるのですか、報告書待っていますというお話
を伺っていたり、或いは、関わった企業さんから、あなただったら継続的に協
力したいという声掛けをいただいたりして、それはやはり確かに子どもたち
に何かがおりにしているという実感を持たれているからなのかなと感じていま
す。

私は本当に力が弱いので、これが私の実力だ、といえる立場ではないので
すが、本報告書を改めて見ていると、たくさんの方々に助けられていると実感
していて、繋がりという意味では、私はそこが一番嬉しいところであります。

○山田委員長

では時間となりましたので質疑応答は以上とさせていただきます。

○事務局

続きまして、子どもアニメーション体験教室、小さな教室カクツクルさんか
ら御報告いただきたいと思えます。

御準備よろしくお願ひいたします。

それではよろしくお願ひいたします。

(小さな教室カクツクル発表)

○事務局

それでは質疑応答に移ります。

山田委員長よろしくお願ひいたします。

○山田委員長

では委員からの質問、コメントをお願ひいたします。

○坂田副委員長

このアニメーションの大ファンになっておりまして、何回も見て、とても素

敵な動画だと思いました。

子どもたちの声が本当に素晴らしくて、あの短い動画で、多分小さいお子さんはくぎづけになるのでは、と思いました。

報告の中で、グループワークで子どもたちが一緒に取り組むところが素晴らしい成果だったとあるのですが、個を尊重する社会になって何年も経ち、一緒に取り組むということはこれからの社会生活の中でとても有効になると感じていて、まさにここで実践していただいたと思いました。

一つお尋ねしたいのが、学生のインターンがどうここで関わっていたのか、もう少し教えていただけたらと思います。

○小さな教室カクツクル

まずコマ撮り動画を取ることは結構大変で、機器を準備する時も子どもたちがいるので、相手をしないとイケなくて、その相手や、機器の準備も手伝ってもらいました。学生は、年齢が子どもに近いので、子どもと接するところで本当に助かりました。

○坂田副委員長

関わった学生さんはどういう感想をお持ちでしたでしょうか。

○小さな教室カクツクル

今日は代表が来ておりませんので、お答えすることが難しいです。申し訳ありません。

○坂田副委員長

きっと学生にとってもいい経験になったのではないかと思います。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

○市川委員

一つお伺いしたかったのが、参加の人数を拝見すると、合計で15名ということで、このワークショップ自体大人数では難しいイメージはあるのですが、想定されていた人数は達成できた感じなのでしょうか。それとも、もう少し人数は受け入れられたというイメージでしょうか。

○小さな教室カクツクル

規模的に小さく行いたかったというところは実際あります。しかしながら、8月は18日、19日で2日間に行ったのですが、丁度夏休みの時期ですので、親御さんたちが夏休みに子どもに参加させようとする、2日間は結構大変だったのかなど、応募も多かったわけではないので、もう少し多くても対応できたのではないかなと思います。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

○山口委員

今後の展開のところ、人手不足からくる不手際等を防ぐために、とありますが、その不手際というのはどういうもので、有識者や市からのアドバイスとは、どういったものを具体的に考えられておりますでしょうか。

○小さな教室カクツクル

不手際というのは、まず広報の部分で、11月9日の参加者が2名となっておりますが、サポートセンターの広報にチラシを出してもらった予定でしたが、そこが不手際で出せなくて集客ができませんでした。

サポートセンターや他の団体に関わってもらって、宣伝するなど、横の繋がりを広めていくことができればよかったという反省点でございます。

○山田委員長

それでは今の質問で最後とさせていただきます。

○事務局

それではここで休憩の時間を取りしたいと思います。

15時28分までの10分間休憩の時間取らせていただきます。

(休憩)

○事務局

それでは時間になりますので、お席にお戻りください。

続きましては、広報紙の作成と発行、ふるさとファーマーズさんより御報告いただきたいと思っております。

御用意をよろしくお願ひいたします。

よろしくお願ひいたします。

(ふるさとファーマーズ発表)

○事務局

それでは質疑応答に移ります。

山田委員長よろしくお願ひいたします。

○山田委員長

では委員からの質問、コメントをお願いいたします。

委員が考えている間に一つ質問がありますのでお聞かせください。

今回のこの広報紙の作成では、おそらく、作成をめぐって御自身の発信材料、活動そのものの精査や整理、それから新たな構想づくりに繋がったのではないかと予想されます。

そうした皆さんの団体の活動の質に、この広報紙発行活動はどのように繋がりをどのようにやってよかったと思われたか、そうした感想やエピソードなどがありましたらお知らせください。

○ふるさとファーマーズ

本当に、広報紙のおかげで、見えないお客様、例えば年齢層だったり、学校に置いてくださっているから、子どもたちが畑に行きたい、土を触りたい、野菜を育ててみたいだったりとか、企業さんたちもそうですし、自分たちが日常生活している中では見えない方々から、畑に行きたいというお声がすごく多くて、実際に畑に来て、農作業を一緒にやったりとか、土と一緒に触っていることによって、農業が本当はこんなに大変なんだとか、自分たちで育てた野菜がこんなにおいしいものなんだとかということが目に見えて、やっていたよかった、この活動を続けていてよかったと目に見えたことが、ファーマーズのメンバーにとって一番嬉しかったところでした。

○山田委員長

繋がりが、更に自分たちの活動への自信や確信に繋がったことが非常に大きかったということですね。

では続いていかがでしょうか。

○山口委員

今の委員長の話でも、広報紙の効果についてお話がありましたが、ジュニアファーマーズの皆さんに広報紙を考えていただいたというところで、若い感性

の効果はやはり大きかったと思われていますでしょうか。

○ふるさとファーマーズ

若い世代に作ってもらう、例えば言葉の表し方だったりとか、この言葉が、若い人たちにヒットするよと、やはり農業は40代だったり50代だったり60代の方たちが行っていることが多くて、そういう世代ではなく、若い世代に広めていきたいという思いもあったので、言葉をやわらかくしてみたりとか、不耕起栽培という言葉でも、例えばそれを耕さない栽培方法だよというように、少しずつ難しい言葉だったり、ニュアンスが彼女たちによって分解されたおかげで、若い世代が私達の畑に来てくれるということが大きかったと思います。

○山田委員長

やはり皆さんから見ると、若い人は、農業に対してかなりの感性や感覚の違い、ギャップなどがあるということでしょうか。とすると、皆さんの活動によって、何とか埋めていきたいと感じられる明確な溝のようなものは見つかりましたか。

○ふるさとファーマーズ

やはり野菜はスーパーに売っているものという普通の考えであって、こういうビル街に住んでいると、虫がいなくて、昆虫や生物がどうやって生きているのか、野菜が本当はどうやってできているかということが、なかなかテレビなどの媒体でしかわからない生活をしている若者世代が多いと思います。

そういう世代にこういう広報紙で集客をして、実際に畑に来ていただいて、少し虫が好きになったとか、苦手な野菜が多かったけれど、実際に育ててみて、食べられるようになったという反応がありましたので、少しずつ、今までできなかったこと、若者世代の何かを掴んでいるのかなと思います。

○山田委員長

では質疑応答は以上とさせていただきます。

○事務局

続きまして、純水館文化を茅ヶ崎市民に発信、茅ヶ崎って素晴らしい、茅ヶ崎純水館研究会の皆さんから御報告いただきます。

御準備よろしくお願ひいたします。

それではよろしくお願ひいたします。

(茅ヶ崎純水館研究会発表)

○事務局

それでは質疑応答に移ります。

山田委員長よろしくお願ひいたします。

○山田委員長

では委員からの質問、コメントがありましたらお願ひいたします。

○市川委員

数に限りがあったかと思うので、欲しい方もまだまだたくさんいらっしゃるのではないかと思います。著作権の問題ですごく難しいと思うのですが、PDFでの発行の可能性についてはいかがでしょうか。、小学校の6年生あたりから歴史を習い始めますので、戦前戦後くらいの歴史になった時に、自分たちのまちでどんな人が生きて、今の自分たちとどんな関わりがあったのかという歴史が学べるととてもいいのかなと思います。自分たちのまちへの愛着は子どもの頃から生まれるのではないかなと思うので、子どもたちに対してのアプローチについて、何かお考えのことがあればお伺ひしたいと思います。

○茅ヶ崎純水館研究会

増刷についてはお断りせざるをえない状況です。これを作るときに、無料で皆さんにお配りしますということで許可をいただいていますので、これが有料になると、おそらく許可をもらうときにお金を払わなければいけなくなります。

公共のためでしたらOKですという形でいただいているので、この問題をクリアしないと、勝手にインターネットへのアップもできないということです。

今回、こんなに反響があるとわかったので、もし次回があれば考えたいと思います。

二つ目については課題にも書きましたが、子どもたちへのアピールが一番大事だと思っています。

現在やっているのは、中学校の社会科の先生たちが夏休みに、巡検で、ゆかりの人物館にいらっしゃるので、そこでアピールをして、先生にすごいと思ってもらえることで、子どもたちに伝えることにつながるので、それをやっています。

それから、小学校の高学年、中学生の各クラスには、皆さんのお手元にあるチラシがすでに回っています。

それから、ゆかりの人物館にクイズがあるのですけれども、今大人向けのク

イズしかないので、小学校向けにクイズを作ることを夏休みに向かってやります。

あと、学校関係では直接、或いは担当課からアプローチをしているので、ぜひ子ども達に存在を知ってもらって、いいなって子どもたちに思ってもらうことがとても大事だと思っています。

アドバイスをいただいた通り頑張っていきたいと思います。

○市川委員

今後についての欄を読み落としておりました。

ぜひ子どもの周りでもそういう話が聞けるのをまた楽しみにしております。

○茅ヶ崎純水館研究会

私の尊敬している先生に、私の話を聞いてくれる人がいれば、1人でもいたら行きますと言っている先生がいます。

私もそう思っているので、呼んでもらえば、どこでもお話しますので声をかけてください。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

○坂田副委員長

私は会の存続を願っておりましたので、とてもうれしく今日の報告を拝見いたしました。

冊子が 142 ページですので、編集をするのはとても大変だったのではないかと思います。その辺の御苦勞をぜひお伝えいただければと思います。

○茅ヶ崎純水館研究会

最初から最後まで読むことは結構大変でしたが、やはり皆さんの目に触れるということ考えると、神経はかなり使いましたが、基を作った人が一番大変だったと思います。

何回も何回も見ても修正して、校正も相当何回もやってもらいました。

○坂田副委員長

まさに地道な市民活動ならではの成果ではないかと思っておりますし、これからの子どもたちに伝えていくべき大切な活動だと思っておりますので、ぜひ継続して、これからも活動が続けていっていただけるように心から祈念しております。

○山田委員長

時間ですので、以上で質疑を終了とさせていただきます。

○事務局

以上で予定しておりました7事業の発表が終了いたしました。

ありがとうございました。

それではこれより総括質疑に移ります。

総括質疑とは、市民活動のさらなる発展や、市民活動げんき基金補助制度の向上などを目的に、委員の皆さま及び団体、傍聴の方々から、日頃の活動の中で感じられていることについて、忌憚のない御意見を述べていただくとともに、会場内で意見交換をしていただくものです。

ZOOMで御覧になられている皆さまも、Q&A機能で御質問をいただければ、職員が代読して質問いたします。

なお、質問が多い場合などは、時間の都合上、全ての御質問を御紹介できないこともありますので予め御承知おきください。

総括質疑の進行は、山田委員長と交代させていただきます。山田委員長、よろしく願いいたします。

○山田委員長

それでは皆さんありがとうございました。

ここからはフロア全体で様々な情報交換、意見交換をさせていただければと思っています。

委員の皆さんも質問やコメントがあれば引き続きお話ください。

ではまずフロアの皆さん、傍聴の方も含めていかがでしょうか。

○ART / TANEMAKI

子どもにまつわる団体を集めて、緩やかなプラットフォームを作ろうというところからまず出発して、今年の11月に市役所前広場で、子どものための文化祭というのを開催しようと考えています。

リトルハブホームさんやうみこころさんとはやっていることは全然違っていても、子どもに対してどんな子ども感みたいなものを持っているのか、またその文化を繋いでいくことが、どういうことなのか、言葉でだけではなくて、それぞれの表現の力で、絆が繋がっていったと感じています。

ふるさとファーマーズさんも、実際にお会いするまでは全然存じ上げていなかったのですが、実際に畑にも何回か通っておりまして、子どもたちを連れて

いくことで、まずは部屋の中でスーパーとかで売っている土を触ってもらって、ふわふわしていて虫もいないし、この土はにおいが独特だねと言っている中で、じゃあ畑に行こうと言ってふるさとファーマーズさんの畑に連れていって、湿っていることとか、土があったかいとか、虫がたくさんいる、モグラが住んでいる、一緒にご飯を食べていると気づいたときに、小さな大根とかをみんなでバシバシ引っっこ抜いて家に持って帰って、すぐに調理して欲しいって言われます。

大根の葉っぱも刻んで油で炒めて鰹節かけただけですけどけれど、あっという間にすべて食べちゃいます。

最終的にふるさとファーマーズさんにメッセージを送るからどんなコメントを残すかと聞くと、最初はふわふわの土がいいと思ったけど、全然ふるさとファーマーズさんの土の方がいいと言って、食育と言っても、最初に土から知るということを子どもたちはもうすでに知っているということに私たちも気づかされる。そういうものが、子どもの文化祭にちゃんと落とし込まれて、市民に伝わっていくということがあれば、おそらく茅ヶ崎の10数年後は、こういう社会になっているのかなということを感じる機会に繋がるのではないかなと思っていて、まさにこの補助金がなかったら、そういう活動をするにも、スローステップだったと思うし、文化祭は別の実行委員会を立ち上げて活動することになるのですが、実際に私はART / TANEMAKiも主催していて、令和5年度げんき補助制度で事業をやりましたと言言うだけで、信頼度が上がる、信頼感を得られるので、非常に心強い実績に繋がったなと感じています。

○山田委員長

他の皆さんも、もちろん感想でも結構ですので何かお声聞かせていただけませんかでしょうか。

○傍聴

今日午前中に発表したふらっと南湖です。

今お話にあったふるさとファーマーズさんに、児童養護施設の子を夏に連れてったのですが、やはりハブになる繋がりをいろいろ作っていただいているとお話聞いていて思って、午前中にも御意見をさせていただいたのは、やはり参加したかったイベントがいっぱいあったのですよ。

休憩時間にサポセンの方とも話ししていて、どうキャッチしてどう発信するのか、お知らせするかというのは結構課題だなと思っていて、直前だとお知らせできないというお話もあったので、例えば場所を取った時点で、第一次情報としてサポセンか市民自治推進課がキャッチして、それを少なくとも今日のメ

ンバーにもわかるようにしていただけたら、もっとお互いの広報になると思います。

○山田委員長

こうした広報の展開の話については、おそらく団体の皆さんのそれぞれのお気持ちが、例えば人数限定でないといけないということもあるでしょう。それから、こうした方に来ていただきたい、広く知れ渡ってほしいといった様々な思い、展開の方向性もあるかと思えます。その辺はむしろ丁寧に検討しつつ、情報をうまくブローキングしてくれる人がいるとより良いのかもしれないですね。これは、午前中にも参加者のお話を伺っていろいろ考えたところでした。

これは、サポセンの皆さんも熱心に実践されていることではありますが、更に追加的に、もう少し広く、記者のような人が様々な情報網を張りめぐらすというモデルも、場合によっては考えられるのかなと感じます。まだアイデアレベルですが、そういう方法もあるのかなという気もいたしました。

他にはいかがですか。

○うみこころ

今日皆さんのお話を聞いていて、茅ヶ崎市を良くしていこうという方がこんなにたくさんいらっしゃって、未来は明るい本当に思わせていただきました。

私たちはパフォーマンスで活動しているのですが、見せるだけではなく、様々なことができると考えていて、ワークショップという形で、子ども発信のテーマを決めて、それに対して、どのような声が出るか、どんな動きだろうとか、どんな言葉を発したいだろうとかといった、作品を子ども発信で作ることもできるだろうし、それを大人も一緒に感じることもできるだろうしと、様々なパターンが考えられて、様々なことができると思うので、もし、こんなところでこんなことをして欲しいなど、どんな小さなことでもいいので、何かできることがあるかもしれないので、何かありましたら、お話をさせていただきたいと思えます。

○山田委員長

他にはいかがでしょうか。

○一般社団法人リトルハブホーム

先ほども発言がありましたが、本当にこの補助金でありがたかったこととして、一企業さんなどをお願いする時に、公的な補助事業の実績があると心強い

ですし、こうやって市内で活動している方々と顔の見える形で繋がれて、例えば、チアフルさんのお子さんとうちの子が仲良くさせてもらっていて、子どもたちにとっては障がいは関係なくて、自然現象として繋がれる機会を作れた、体験を通して出会える機会にできたことがとてもよかったです。

市民活動は、みんな何かをより良くしたいという思いを持っているので、こういう公的な応援をいただけて、有識者の方にアドバイスをいただけるステージはとてもありがたいなと思っております。

○茅ヶ崎純水館研究会

様々な活動している時の問題は、やはりお金がないこと、それから発信をどうやってやるか、それから場所の確保かなと思います。

その時に、できる限り様々なところに共催を持ちかける。私達は南湖公民館をベースにしています。

公民館はもともと無料ですし、広報も共催ということであれば、紙代も出してくれるし印刷もしてくれるし、地域に配ってくれますから、場所についても、共催ということになれば、早めに確保できると思います。

私たちは企業と連携をしたことはなくて、協賛という方法もあるのかと思って聞いていましたが、公共の機関とうまくやると、市の広報のところ公民館の欄があれば、イベントとして載せてもらえることもありますし、公共施設に声をかけて一緒にやっていくのも一つの案かなと思います。

○山田委員長

傍聴の方も、制限ありませんので、御発言がありましたら、お声を聞かせてください。

○坂田副委員長

私は平塚市から来ておりますけれども、午前と午後の皆さんの報告を聞いて、茅ヶ崎市は素晴らしい町だなと思って聞かせていただきました。

皆さんの一つ一つの活動がまちづくりに繋がっていて、それがやがては茅ヶ崎市がいいまちになることに繋がっているということにぜひ思いを馳せていただきたいと思います。

それからどなたかの発言の中で、子どもたちの原体験という話があったと思うのですが、今、人口減少が著しく、2070年くらいは人口が8700万人切るかもしれないと言われている中で、これから生まれてくる子どもたちがどういうまちに暮らしていくかは、今私たちが何を行っていくか、ということと繋がっていると思っています。

皆さんの活動一つ一つが、これからの未来の子どもたちの、土壌を耕しているということをますます意識していただけると、更に活発な活動になると思っていますので、これからもぜひ頑張ってくださいと思います。

私の役割は、皆さんの活動がより良くなるような環境整備に一層努めていかねばいけなないと、改めて決意をしたところでございます。

本当に今日はありがとうございました。

○山田委員長

後お1人くらい御発言いただけそうですがいかがですか。

○山口委員

私はこの委員に公募でなりまして、それまでにこういった活動があるのは実は全く知らなかったです。

これだけの素晴らしい活動がされているということを知りまして、3月の令和6年度補助事業のプレゼンと今日知りまして、非常に感動しました。これからもぜひ続けていただきたいと思います。

一つ思ったのは、自分が子どもの時にはあまりこういう様々な設定された場というのはなく、例えば廃材とかは適当にどこからか拾ってきて、自分でなにかを作ってそれで楽しんでいましたし、アニメーションの話もありましたが、昔はデジタルなものはないので、自分でぱらぱら漫画を作って遊んでいました。

そういうものは、もう今はなくなってしまったのかなというところがありまして、それはいいのか悪いのか、どうなのだろうという思いも正直ありました。

でもやはりそういう場がないと、今の子どもたちというのは、なかなか伸び伸びとできる場所もないのかなということもありましたので、子どもさんの活動だけではなくて先ほどの茅ヶ崎純水館研究会の皆さん活動もそうですけれども、ぜひこういう活動を続けていただけたらば、茅ヶ崎市の未来はとてとても明るくなるのではないかと考えています。

○山田委員長

では予定の時間を少し過ぎてしまいましたので、総括質疑はこれにて終了とさせていただきます。

皆さん御協力ありがとうございました。

○事務局

山田委員長ありがとうございました。

続きまして、閉会の御挨拶を山田委員長お願いいたします。

○山田委員長

今、大学や学生は、こうした市民活動の実際に関して興味を強く持っています。特に学生は、社会に飛び出していく直前の段階で、改めて、自分たちの身の回りで起こっている課題はどのように解決することができるのか、これからの社会を自分たちの生きやすいように、暮らしやすいように変えていくことはできるのかと、真剣な、深刻な悩みとして考えています。

ただ、学生は学生なりのやや自由なところもあります。それゆえ、解決できるかできないかはわからないけれども、とりあえず興味を持って、そういったところを覗いてみて、実際に活動に参加して、打ちのめされるような衝撃とともに理解と成長をして、活動から帰ってくるのが結構多くあります。

その点では、皆さんの活動報告を通じ、自分も一市民として、教育に関わっている者として、こういった活動を別の人に伝えていくことも、やはり重要なことだと感じました。ありがとうございました。

まちが輝くとか、人と人とが繋がって、まちが豊かになるということについては、今日のお話を伺っていてとても強く感じたポイントでした。今日皆さんには1年間の活動のストックの提示をしていただいたのですが、そのストックは思いの外、皆さんのなかのフローにも繋がっているということもわかりました。複雑な次元の中で活動展開をされて、それを成果として今日御報告くださったところは非常に面白く、まちがそれだけ多次元に広がっていることが、まさに市民活動の魅力だと感じました。

例えば、世の中では物とかサービスの消費とか、それから近年では、コト消費と言われるところがあります。それから、テーマパークなどは物語消費と言われたり、近年では若い人を中心に自己実現も消費と言われたりしていて、何でも買うとか手に入れるということが多くなっています。けれども、それだけでは、まちは成長や活性化しないのではないのでしょうか。なぜかと言うと、消費だけでは生産がなく、作ることがないからです。

だから、何かを作り出す動きが必要です。今までは、企業がやってくれるだろう、自治体が作ってくれるだろうと思われていたところを、市民自らの手で様々な形をつくれますと、世の中に示していくことが市民活動の持つとても素敵な魅力的な意義だと言われるようになりました。それが茅ヶ崎では、今日の御報告のように、多次元に展開されていることを教えていただくことができました。先ほど山口委員も感動したとおっしゃっていましたが、自分自身も学ばせていただいて、感動したところでもありました。とても素敵なまちだとの思いが、一番正直な感想になります。

そういう意味では、私たち委員も、このような機会に勉強させていただき、

さらにこの補助制度の仕組みをより良いものにしていきたいと思います。また、後日のこの報告会の振り返りの議論なかでも、皆さんの様々な思いを市長に伝えていく材料とさせていただきたいと思います。

今後も、皆さんの活動を楽しんで、その魅力を多くの市民の方に伝えていただければと強く願った次第です。

今日はどうもありがとうございました。

○事務局

山田委員長ありがとうございました。

発表して下さった皆さま方もありがとうございました。

以上をもちまして、令和 5 年度実施市民活動げんき基金補助事業実施報告会スタート支援の部を閉会いたします。

会場出口にて市民活動げんき基金の募金箱を設置しております。

会場にいらっしゃる皆さま、お帰りの際には御協力いただけますと幸いです。

本日は長時間にわたりありがとうございました。